

団体名：フェーズフリーな防災企画チーム  
(平時と有事をワンセット)

## 団体概要

- ・地震等への災害対策は大切であるが、なかなか長続きしない。平時と有事をワンセットで取組む「フェーズフリー」の概念を知り、平常時の「まちづくり活動」が同時に災害時の防災にも役立つような取組みができないか、企画実行するチーム。

活動名：日常のまちづくり活動に非常時の共助を合わせ織り込む活動

## 1 活動の目的

- ・地域の自主防災力を強化するために、日常のまちづくり活動を実施し、それが同時に災害時の共助に繋がる事を実証する事。
- ・自主的に児童の見守りや公園の草刈りに取組む近隣住民が集い、本活動の趣旨に共感し、達成感を得ながら活動を進める事。

★フェーズフリーとは、「防災活動の日常化」を進める事。

## 2 活動の内容

★本活動の理解を深めるため、LPガス式の発電機で草刈りを実施  
平時：電源のない公園で、発電機を利用して電動器具で草刈り。  
災害時：公民館で照明・スマホ充電や炊出しに、LPガスが有用。

- ・新型コロナの影響で人と人が交流する機会が激減したが、屋外の草刈り・清掃作業を実施することで、公園を利用する児童の増加が実感でき、やりがいのある活動になった事。

- ・活動のヒントになる防災関連の事例を種々収集。



## 活動の振り返り（目的を達成できたか）

- ・災害時に役立つLPガス式発電機を活用して公園の草刈りを実施した。電源のない公園は、災害の停電を想定でき有効性を検証できた。
- ・本活動に興味を持つ有志が集い、自主的な参加でほぼ毎月活動した。夏季は雑草の成長が早く大変な作業だったが共助の重要性を共感した。



## 今後の取り組み

- ・新型コロナは地域住民の交流の場を遮断した。今後は、神輿祭りや左義長祭りで地域住民が集う折に、フェーズフリーな防災の輪を広げる。
- ・南海トラフ大地震等に備えて、さらに効果的な共助の準備訓練について、検討を進める。

★平凡な活動に工夫を加えて、災害に備えたい。



地域住民の共助が鍵

